

2017年度の活動報告

＜今年度の報告＞

1. 法人の理念に基づいて職員一人ひとりが意見を出し合い、子どもを大切にしたい保育をめざす。

＜保育＞

- ・ 異動職員の保育力と主任が中心となって行う保育指導の中、法人の理念に基づいた保育が少しずつ展開されてきた1年園内研修・実習生指導などの職務が徐々に根づいてきた1年だった。副主任との連携や保育の考え方を常に確認しながら進めてきた。（副主任…3月より産休）
- ・ 就業規則の実働時間が変わり2年目となる。子どもに向き合う時間が多く、室内外での保育の充実につながった。その一方育休職員3名（うち1名非常勤有資格者）が抜けた体制は厳しく、事務時間・休暇の保障では大きな成果がなかった。年休消化率が一桁台で課題となっている。
- ・ 「ちさいなかま」の小論「改定保育所指針・長瀬美子さんの乳幼児期に育つこと・育てたいこと」の読みあわせを12ヶ月継続し、子どもの思考力や子ども自身の体験をどう見ていくか、自分たちの保育と照らし合わせながら学んだ。
- ・ 各部署会議ではクラスの問題点、全体への提起、確認事項を話し合い、内容を様式にまとめ全体で話し合う。職員会議の中にミーティングを位置づけたが時間がとれず、保育時間内で工夫して時間をとり話し合った。
- ・ 経営懇話会研修・私立保育園連合会・東社協・品川区主催の研修等、今年度の研修計画に基づき研修を行ってきた。
- ・ 第6回法人研修では理念と基本方針、法人の歴史・子どもの人権・貧困問題や大宮勇雄さんを招き「保育所指針改定と私たちの保育」を学びあう。その中で法人の理念や方針を今まで通り進めていく事が大事な事だと認識を新たにした。

2. 安心して生活が送れるよう、保育環境を整える。

＜施設・設備について＞

- ・ 園庭コンクリート部分をすべてゴムチップにしたことで、砂に足を取られて転倒すケースが減った。
- ・ 2F 幼児室の柵と園庭遊具置き場の開閉扉を透明ポリ版を使用し引き戸にした。引き戸にしたことで園庭では子どもたちが自分で遊びたい玩具を取りに行けるようになり主体的になった。その他園庭水道前のコンクリート部分に穴開けをし、遊びの把握に努めた。
- ・ 東門の鍵が故障し新しく鍵を取り付けた。（施錠が効かず常に空いた状況が続いた）
- ・ 年3回（4月・8月12月）の放射能チェックを行った。（数値は最大0.07…植え込み）
- ・ 給食室では蒸気によるカビが食洗器の上に広がり健康被害と思われる咳や頭痛を訴えることもあった為、清掃後ステンレスを張り、カビの発生を防ぐ。
- ・ ホールのサッシの劣化と鍵取り付け場所の危険性から、共同募金に申請した。
- ・ 保育室に虫が大量発生し、外部業者に依頼し1年間虫駆除をしているが大きな効果が見られない。

＜給食＞

- ・ 今年度はアレルギー児4名でスタートするが7月より1名増え5名となる。
- ・ （牛乳・卵・小麦・ゴマ・納豆・柑橘）
- ・ 法人で同一メニューの検討に入り9月に家の献立を、11月に丘の献立を試行的に双方で作って細かな違いを食育担当者を中心に意見交換する。互いのメニューで折り合いがつかず理事長、園長、栄養士又は、主任

を交えた「運営委員会」の中で方向性を出し歩み寄る。又献立以外的一致点もこの間話し合い、確認しあった。(例えば調理工程・火入れ時間等をどうしているか等)

- ・ クッキング計画の中で丘独自のクッキングを見直した。(お菓子の家・クリスマスリース等)
- ・ 給食室では子どもの嗜好も大事にしながら常に前向きに食と向き合い、クッキングの中にクラスの要望などを組み込んでいる。保護者の満足度はとても高い。

<保健>

- ・ 感染予防で12月からペーパータオルを使用。インフルエンザによる感染症は職員含め7名だった。胃腸炎なども見られたが拡大することなく終息した。今後も発生した際の保護者への発信や保育室で配慮すべきことを徹底していきたい。
- ・ 通院による怪我は4件だった。(下記参照)
0歳児男児、室内滑り台の上でバランス崩し口の中と外を切り受診。
1歳児女児ひっかき傷での受診。
3歳児男児EV棟前の階段で転倒し舌を貫通する大怪我・同じ子による室内での転倒あり口角を切り受診。
5歳児の男児3人での遊びの中で床に鼻を強打し受診。
- ・ ヒヤリハットの件数は16件あり、主に乳児が多かった。
プールあそびから室内に戻る際にホールから階段へ行くケースは2歳児に2件見られた。1歳児では公園の柵越え1件、取り合いの末のひっかきが多く保育の見方をその都度話し合い事故や怪我防止に努めた。
- ・ 一人職種である看護師同士の交流が十分ではなかった。看護師部会の後、又は計画的に情報交換をする時間を作っていく事が課題。又事務時間をうまく勤務内に位置付け出来なかった。体制上保育に入らざるを得ない日が多く、改善が難しかった。

<組織・運営>

- ・ 理事長・園長・主任レベルの運営委員会を年3回行う。就業規則・人事・処遇改善の考え方・宿舍借り上げ等法人間で一致計ったり、両園の情報交換・課題などを話し合った。
- ・ 今年度給食室の異動を考えていたが来年度に変更となった。その心づもりをしていた職員と部署内での不調が見られた。反省として今後は更に慎重に進めていく事の大切さを学んだ。
- ・ 新人採用者1名は「乳児研究会」に参加した。法人が目指す保育を学びながらリーダーや主任に指導をもらった。

3. 地域とのつながりを積極的に持ち、夕涼み会・焼き芋会・餅つき会等交流する場をつくっていく。

- ・ 敬老の日の会は今年度で3回目を迎えた。参加者は町会副会長や理事長・祖父母含め8名と昨年に比べ、やや少なかったが和やかな会になった。食事の提供も7名の方が子供たちと一緒に楽しんだ。かかわりも自然で言い会となった。
- ・ 中学生の保育体験があった。(2名)大きなお姉ちゃんたちとの交流は予想以上に大きく、今後も次世代育成を視野に交流をもっていきたい。
- ・ 毎月の行事・日常の姿をHPでお知らせしたり、地域向け用に行事を冊子にし地域において頂いた。掲示コーナーは各担当が季節の装飾をや子どもの作品等も飾り保育園に親しみが持てるよう工夫した。
来園者は年間33名と少なくなっているが、昨年度より7名増だった。より保育園の工夫が必要になってきているのを感じる。地域性も関係しているように思われるが開かれた保育園を目指し工夫がもっと必要であると感じる。職員のアイデア・発想を大切にしたい。

4. 父母会と手つなぎや保育園の行事や運営を共に考える。

- ・全体保護者会・懇談会・クラス通信等でこどもたちの姿を伝え、成長を喜び合う。行事を通して保護者の協力を得ながら子どもたち参加してできる取り組みを一緒に盛り込んだ。
- ・「父母会」の活動が負担、というご意見に関しての抜本的な解説策がなかったが、今後も子どもたちや職員の参加も含め改善をしていきたい。

5. 非常勤保育士の法人研修を計画し、保育の見方を一致させ連携し保育をすすめる。

- ・第2回非常勤研修を計画し、法人の理念・子どもの権利条約・保育の歴史・見方を研修しあった。時間帯が違う職員が同じテーマで学びあえた事はとても良かった。新たに就業規則の項目に「表彰」をいれ勤続年数5年以上の職員に表彰した。(みどりの丘保育園では2名、表彰の対象職員がいた)
- ・法人研修を通して普段交流できない職員同士の交流が見られ、法人の職員という意識が持てたように感じた。

参考資料

29年度園児数

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	他区含む
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
2歳児	12	12	12	12	12	11	11	11	11	12	12	12	140
3歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
4歳児	10	10	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	133
5歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	141
合計	66	66	67	67	67	66	66	66	66	67	67	67	798

一時保育

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児							1	16	13		12	4	46

アレルギー除去・代替食

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	57

年末保育

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12月29日	1名	4名	0名(1名)	2名			8名(1名)
30日				1名			1名

平成29年度(2017年)の延長保育利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
補食	63	52	69	52	48	37	46	25	38	41	50	45	566
夕食	15	28	26	30	16	29	37	47	44	37	36	42	387
合計	78	80	95	82	64	66	83	72	82	78	86	87	953